

トルコの首都アンカラ。

この名前だけは社会の時間に習うが、じゃあ何があるの?と聞かれて答えられる人は少ない。

何故なら『何も無い』からである。

強いて言えば、各国の大使館があるだけである。

もちろんちょっとした博物館とか、オペラハウスとかはあるが、まあ大抵の旅行者は、ビザ以外の目的ではあまり来ない(と思う)。

あるガイドブックを見てみたら、イスタンブールの 28 ページ対アンカラ 7 ページだった。

300 万人が住む首都だからこれだけ割かれているが、出てくる内容はホテルとレストランばかりであった。



アンカラの大使館街の近くにある 112 メートルのタワーから撮ったアンカラの街。さすが 300 万人都市という気はする。

アンカラへ

話は前後するが、魚の温泉に行く前に、いったんアンカラへ寄っていた。

夜の 10 時にアンカラへ到着。首都の割に何だか暗い。人も少ない。バスターミナルの周辺はまるで活気がない。バスターミナルの周辺って、普通は賑やかなもんだ。

『ここって本当にアンカラ?』と、隣の席の青年に聞くが、間違いなくアンカラだという。確かにこれ程でかいバスターミナルはそうそうないから本当だろう。

でもでもでも、回りがやけに薄暗いぞ。バスの乗客はどんどん降りていく。微妙に違和感を感じながらもバスを降り自転車に荷物をセット。

ロンブラの地図を見ると、バスターミナルの近くに何とかというタワーがあるみたいだ。そしてその先に安宿街。そう言えば、バスを降りる前に、ノッポビルが見えたっけ。なるほど確かにここに違いない。

まずはそのタワーに行けば、間違いなく安宿街に行けるはず、そう思って、真っ暗な道を漕ぐ私。しかし、バスターミナルを離れるにつれ、人通りもどんどんと少なくなっていく。

どうも年齢を重ねるにつれ、方向音痴になってきた、という事は以前書いたけど、最近思い込みも激しくなった気がする。

実は地図に載っていたバスターミナルは、ミニバスのターミナルで、大型バスの方は安宿街から 5、6 キロも離れた場所にあるのだった。その場所にいたって訳だ。

しかしその時にはその事に気づかない。何だか『おかしい』とは思っていても、なかなか頑固な思い込みをしている。地図上では、安宿街までは 1 キロのはずだが、なんて思っている。

タワーまで行っても、一向に街の中心という気配がない。だからぐるぐると到着したバスターミナルの回りを回るだけの私。

冷ややかなギリシャ人に対し、トルコ人は実に親切である。もうびっくりするぐらい人に優しい。

これはイスラム教に『旅人には親切にきなさい』という教えがあることも一因だと思われる。

自慢じゃないが、信仰心に厚い私なんざ、もう何度トルコ人にその機会を与えたかわかりやいな

い。そして今、最大の功德をするチャンスだけ、トルコ人よ(既に図々しくなっているこの考え、けっこう危険である)。

『おーい、誰かー、何とかしてくれー』と叫びたいが、回りには誰もいない。もう夜中の 11 時を回ってしまった。ギリシャの夜は遅いが、トルコの夜は結構早いのだった。

えらく心もとないし、気がつくとは何か寒い。

後で知ったが、アンカラは 1000 メートル近い高地なのだ。まだ 9 月中旬だつてのに、この夜の気温は 10 度。昨日まで、暑くて寝苦しかったのに、ここでは鳥肌が立っている。

T シャツに短パン、サンダル姿で、真っ暗な道で自転車に乗っていたら、さすがに異様である。しかし寒い。荷物の中からフリースだけは取り出した。

ラブワゴンでも通ったら、絶対乗り込んでいたところだ。そして、人恋しい私と心傷ついている女の子は...

いかんいかん、眠いわ寒いわで、妄想まで始まっている。

バスターミナルに戻り、近くで騒いでいた学生を掴まえ、

『ねえ、ここってアンカラだよな』

これほどアホな質問はないが、真顔で聞く私。若者に大受けである。一応答えは YES。

『じゃあ、これってアンカラのバスターミナルだよな、でバスターミナルって 1 つだよな』と聞く私。答えは YES。

人の気も知らんで、『トヨタ、ナカタ、ジャッキーチェン』などと言ってくる(だからジャッキーチェンは日本人じゃないんだってば)。

地図は暗くて見えないので、安宿街のエリアに近い公園の名を言うと、ずーっと向こうの方だという。何だかさっぱりわからない。取りあえず行くか。これ自転車がなかったらどうなったことやら。アンカラなんか嫌いだ。

いろんな店に徹底的に立ち寄って道を聞く。しかしトルコって英語が通じる方が希である。やはり国がでかいと自国経済だけで生きて行けるので、そんな国は英語が出来ない(その典型は日本)。ほとんど通じない会話を頼りに安宿街に向かう私。

アンカラの宿

アンカラが旅行者から避けられるもう 1 つの理由は、安い宿がほとんど存在しないことである。いわゆる安宿街と呼ばれるエリアはあるのだが、総じて高い中でちょっと安いという程度らしい。でもそこ以外だと、貧乏旅行者はアンカラに泊まれないとも聞く。

その安宿街にようやくたどり着いた。しかし行くホテル行くホテル満室。

20 分かかってようやく 1 部屋見つける。1 泊 15M リラ(1125 円)で、トルコにしてはやはりちょっと高い。4 連泊するからと言うと、40M リラにしてくれた。

安心してまずはレストランへ。しかし全く閉まっている。そりゃそうだ、もはや真夜中だから。仕方なく水とコーラを買って宿に戻る事に。むなしすぎる...

すると、さっき対応したホテルの従業員は 4 日で 60M リラよこせという。何でいきなり、と聞くと、どうやら掛け算を間違っただけらしい。なんだソリヤ。

今になってそれはないんじゃないの、と粘ったが、彼はオーナーではなく、単なる従業員の様で、全く交渉の余地無し。この時点で午前零時だったので、妥協してもう泊まりたかったのだが、こういう理不尽さを許せない。アンカラなんて嫌いだ！

仕方なく次の宿を捜しに出た。またまた 20 分も掛かって、ようやく 1 軒見つけた。トイレ共同シャワー無し 10M(750 円)。取りあえずここに決めた。

日本大使館

9 時に開くツーリストインフォメーションに行き、地図をもらってまずは日本大使館へ急ぐ。

ところが数キロの道のりは常に登りだった。大使館街はアンカラの高台にあり、取り分け日本大使館は上の方だ。多分 2~3 百メートルは登ったに違いない。交通量も多いし、タクシーは蠅の様に停まったり急発進したりと動き回る。歩いている人を見つけると、まずはクラクションを鳴らすというのがトルコのタクシー。うるさいったらない。しかし、自転車を漕いでいる私にも鳴らしてくる。自転車なんだから乗らないって。

こんな場所なら自転車で来なきゃよかったよ。因みに、アンカラで自転車を漕いでいる人を見掛けたのはたったの 1 回だけだった。

何故日本大使館に行くかという、中東各国のビザ取得に際しては、各大使館で、【レター】と称する日本大使館発行の書類を要求するからである。その内容は、『この日本人にビザ出してやってえな、あんじょう頼みませ』というもの。日本国民であるというお墨付きの様なもんだが、こんなレター 1 枚が必要なのかねえ。

アメリカ大使館周辺やシェラトンホテルなどをたくみに避けながら到着した日本大使館。しかし門で待たされること 10 分。

『日本国民にも関わらず、何でこんな場所で、しかもこんなに待たせるんだらう。俺は納税者なんだぜ』と怒りながらも、『おっと最近では納税していない』などと一人突っ込みを繰り返していると、ようやく建物の中に入れてくれた。

書類の申請をし、さらに待たされること 50 分。何だか良く分からないがやたら待たされた。

ようやくレターをもらったが、既に 11 時半を過ぎている。

申請したいビザは、シリア、イラン、パキスタン、インドなのだが、どの大使館も大抵は午前締め切りになっており間にあいそうも無い。これで、何も無いアンカラの滞在が 1 日増えるのであった。一応、各国の大使館の場所を確認し宿に戻ることに。

アンカラのマーケット

宿の周辺には、すごい数のお店が並んでいてびっくりした。早朝には何もなかったのに。

また昨日の夜にはゴーストタウンの様だった。ゴミは近かり放題。それを犬と人間が漁っている。アンカラってのはひどいところだと思っていた。

この付近は、要は商業エリアだったのだった。だから安宿が多いみたいだ。

宿のすぐ回りは家具や鍋など。

ちょっと離れたところには洋服や靴のマーケット。たくさんの人が買い物に来ていて周囲はごったがえしている。

ぶらぶら歩くと、トウモロコシを焼いているオジサンに遭遇。

焼きトウモロコシは 1M リラ(75 円)。煮ただけのトウモロコシは 0.5M リラ(36 円)。焼きトウモロコシを頼んだのに、日本人だと聞いて、0.5M リラに負けてくれた。トルコ人、日本人が好きみたいだ。こういう事がたまにある。こんな薄利多売の人に負けてもらって何だか恐縮なんだけど、それだけに嬉しい。

因みに味は甘みは薄いが結構香ばしくて美味しい。日本のものよりちょっと固いかな。

この露地の奥には靴屋さん街。その奥には果物。そして大きなドームに、野菜や肉、魚を売っているマーケット。

いろんなものがすごく安そうだ。



マーケットの中のトウモロコシ屋さん。煮たやつは 500,000 リラ(38 円)、焼いたやつは 1,000,000 リラ(75 円)

圧巻は絨毯。さすが絨毯の国トルコ。

写真の様な絨毯が 1 枚 10M リラ(750 円)で売っている。買いたいが、さすがに持って帰れない。

このマーケットの至る所で売っている絨毯だけど、そんなに絨毯って需要があるのかとても不思議。

年期の入ったおじいさんが、日がな一日のんびりと販売しているので写真に取らせてもらった。でも売れるのかなあ。



道端の、ちょっとした壁を利用して絨毯を売っている商売根性がすごい。絨毯はとてもきれいで安い。

シリア大使館

翌日 9 時過ぎにタクシーに乗りシリア大使館に向かう(さすがに自転車はもういい)。

受付で申請書をもらい、並びながら書く。30 分は並んだがそこまではよかった。ところがいざ自分の番になると、受付してくれず、門の前で待てという。

待てども待てども呼んでくれない。トルコ人は全員申請が終わってどこかへ行ってしまった。でも待てと。大使館に出入りするシリア人が来るたびに、『待ってんだけど』という。その内、インターフォンで、『ジャパン、ウエイト』と怒られてしまった。どうやらモニターされている(でも無視はされていないみたいだ)。

結局日差しが照る中、1 時間半も待たされた。そしてようやく大使館の中に入る。トルコ人以外は面談がある模様。

しかし『何故、シリアに行くのか』と聞かされただけ。

あとは面接官が、日本文化は素晴らしいだの、日本は好きだの、寿司は美味いだのなんだのと、延々としゃべっている。『だからどうした』『何で外で待たす』と言いたかったが、ビザが出るまでの辛抱。『へえー』と感心した振りをしていると、さらにしゃべり続ける係官。

結局、ビザ申請だけで3時間も掛かったことになる。これが12時過ぎに終わって、再び2時に来いという。

一応2時前にシリア大使館へ。大使館スタッフが大使館の中から、道路に並んでいる一人一人を呼び出して、鉄格子の内側からパスポートを投げるように渡している。やな感じ。シリアって日本人旅行者の間での評判は最高だが、もしかしてやな国？

やはりトルコ人全員が終了した後、3時になってようやくビザをもらえた。

インド大使館

翌日、インド大使館へ行く。対応はとても親切。相変わらずインド人の英語はよくわからないが、何でもビザを取得するにはまず15ドル払って申請し、認可が下りれば40ドルでビザを発給すると言う。そしてトータルの期間は1週間弱。そんなに時間が掛かるのか。最初に来ればよかったよ。インド大使館の人が親切に、『アンカラは何もないから、もし何だったら他所の国に行っから取れば』と勧めてくれたが、シリアは何か嫌な感じがするし、イランじゃ文字が分からん。そもそも、トルコだって地図には、【ヒンディスタン】とだけ書かれていて、最初はインド大使館かどうか分からなかったのに。

世界のどこで取っても待つのは同じらしいのでせっかくだからここで取る事に。

イラン大使館

さらに翌日、土曜日だったが開いているというイラン大使館へ(イランは金曜と日曜が休みらしい)。前日に銀行で50ドルを振り込み、その証書を持って午前中に申請。インドで1週間だから、こりゃーイランも1週間ぐらいか、と思ったら、申請書はOKだから今日の4時にもう一度来いという。まさか同日発行???

4時に行くと、あっさりビザ取得。イランが一番手強いと思っていたら一番あっさりしていた。かつてイランは、日本がイラン人に対するビザ発給の基準を厳しくしたので、嫌がらせの意味でビザをなかなか発給しないと聞いていた。時には日本人旅行者に対し、『なかなか発給されない理由を知りたかったら日本大使館に行って聞いてこい』とまで言われると聞いていた。しかしこの発給のスピードと親切な対応には驚いた。イランも開かれた国になったか。

しかし後で聞くと、この時期、何でかフランス人は嫌がらせを受けているそうである。

そしてさらに可哀想なのがイギリス人。イギリス人の場合、たくさんの書類が必要なのだそう(わかる気もする。アメリカ人もそうだろうな)。

アンカラで知り合ったイギリス人は、テヘランから取り寄せた書類2通やその他もろもろのイギリス大使館のレターを携えてイラン大使館に毎日通っているが、一体いつになったら対応してくれるのか分からない、と嘆いていた。

イギリス人が『インシャラー(神の御心のままに)』と嘆いていた。

因みにこのイギリス人、家族で一年間旅行しているそうだ。子供たちはその期間、小学校へ行っ

ていないが、それでも進級できるそうだ。そう多くはないが子連れで旅をしている家族は結構いるという話。たまたま彼の奥さんが先生をしているので、子供には旅先でレッスンをしているらしい。

日本じゃあまり考えられないけど、なんかうらやましい。

イラン大使館で待っている間、待合室においてあるイランの写真集を見る。

写真には、黒い布で全身を覆われ、目だけが開いている格好の女性が、ピストルを撃っている場面が載っている。

おおっ、さすが、アメリカが言うところのテロ支援国家イラン、女性スパイナーの写真集か。

と思ったが、実際には1993年に行われた、アラブ女性によるスポーツ競技大会の様子だった。

あれは射撃競技なのだった。黒づくめの姿はやっぱりちょっと怖いけど。

パキスタン大使館

パキスタン大使館には4時に来いと言われていた。

しかし3時40分に到着するともう遅いという。明日来いと言う。

断然抗議した。『昨日、あなたが4時に来いに行ったから、4時前に来たんだ。何故ノーという。

おかしいではないか』と私、一応丁寧に。

窓口のオヤジ曰く『そもそも申請は午前中である。1時や2時、遅くとも3時までに来れば何とかしないでもないが、もう4時近いので駄目だ。明日来い、いや明日は金曜で休みだから月曜日だな』と大上段に言い放つ。

『昨日の事を忘れたか。いったん提出したパスポートは、インドビザ申請の為に返してもらった。でも申請は昨日の午前中に行ったという事になったではないか。それで今日の4時に来いとお前が言ったんだろ、何故翻す』という私、だんだん狂暴に。血がたぎるぜ。

昨日インドビザ申請の為に、いったん出したパスポートを返してもらっていた。確かに特別措置だ。でも申請書は全部提出しているし、それでもよいと言ってくれていたのに。

『とにかく、もう4時なので作業できない。月曜日来い』という相手。

こんなやり取りを延々と繰り返し、最後には無視される始末。

余りに頭に来て、まず昨日申請した書類を取り返した。その上で、

『あまりのアンフェアなやり方に抗議する意味で、この件は日本大使館に報告する。しかしその前に、向こうのビルにいるお前のアンバサダーに言ってやる』と捨てぜりふを吐く私。

実は一番最初にパキスタン大使館に来た時に、間違っただけで違うビルに侵入し、ここは大使公邸で、今お昼寝中だからお静かに、と優しく諭されたのだった。だから場所なら知っている。

こんな用件で行くと、へたをすると警察沙汰になる可能性があるが、このいい加減な対応を表沙汰にしてやろうと思ったのだ。

でも敵もさるもの『おおっ、アンバサダーか、言えば良いじゃないか』と開き直る。

こうなると負けかなあと思っていると、『こっちだ』とドアを開けてくれた

おやっ、本当に大使様に会えるのか???

と思ったら、会わせてくれたのは彼の上司だった。

斯く斯くしかじかと説明しようとする、私の話なんか聞かずに『日本人なんだから出してやれ』

と命令が下り、無事に発給されることに。

5 時になり、大使館のスタッフが皆帰って行く。例の上司も帰ろうとする。

私を見るなり、窓口のオヤジに一言、『おい、日本人がまだ待ってるじゃないか、早く渡してやれ』と(たぶん)言って、私に『今、出すからね』と言い帰って行った。いい人だ。

すると例のオヤジが、上司が帰るなり、この期に及んで『プロブレムあり、月曜日来い』という。いい加減頭に来ていたが、どうやらこれは最後の最後の意地悪だった様だ。そして無事にビザ取得。

何だか官僚主義と形式主義に振り回されたアンカラの日々だった。アンカラのせいじゃないけど、ますます嫌いになりそう。

このビザ取得におけるそれぞれの国の印象と、後でその国を訪れた時の印象を比較したいもんだ。ビザ発給をまとめるとこんな感じ。

国	その場で待たせた時間	申請から発給のスケジュール	料金	感想
(日本) 中東のビザには、何故か自国大使館のレターが必要になる事が多い。	60分 以上	行った時にくれる。	無料	各国へ出すレターをもらいに行ったもの。 この日依頼したのは私一人。でも結構待たされた。『小一時間かかるから、よかったら図書室で何か読んでいたらどうか』、の一言が欲しかった。国の為に外交機密費を使ってもいいから、国民の為に気もつかって欲しいよ。
シリア	4時間	同日(午前申請午後発給) 面接あり	\$23	強い日差しが照る中、門の前で何の説明もなく延々と待たされた。スケジュールを教えてくれたら他の大使館に行けたのに。非効率と非人道的な扱いは全く許せん。 でも同日ってのはやっぱり嬉しい。
イラン	10分	同日(午前申請午後発給)	\$50	極めて親切。これが悪名たかきイラン? というほど。でも高いぜ。
パキスタン	60分	翌日発給	何と無料	性格の悪いパキスタンオヤジが窓口で苦労した。 因みにイギリス人は108Mリラ(8100円)、フランス人は35Mリラ(3375円)もする。
インド	10分	金曜日に申請したら木曜日に取りれた。 但し木曜日は午前と午後の2回行く	\$15 + \$40	何でこんなに時間が掛かっちゃうの? しかもむちゃ高いし。 でも対応はすばやく親切で确实。

		事になる。		
--	--	-------	--	--

アンカラ郊外の温泉

ビザ待ちの間に、魚のいる温泉やカッパドキアを訪れたが、アンカラ郊外のクズルジャハマン (Kizilcahamam) という温泉にも行く事にした。この温泉、hamam というワードが入っている。ガイドブックには登場しない街ではあるが、何だか期待できそう。

アンカラからは 80 キロ離れているそう。バスで 7、80 分。でもバス代は 3M リラ(225 円)と格安。安宿街の近くから出発。バスは乾燥した大地を進む。

温泉の料金は 2.5M リラ(188 円)。4 人が入れるブース(休息所)で着替え、海水パンツのまま奥へ進む。海水パンツをはいていても、腰巻きを付けろと言われた。田舎だけに習慣には厳しいみたい。

温泉は 2 つの大きな部屋からなっている。1 つは洗い場、1 つは浴槽。洗い場の蛇口は 15 個くらい。中央に 8 人くらいは寝ることのできる台があり、友人同士で垢すりあいっこしている。

トルコは同性同士の距離感がものすごく近い。一見すると、ハンガリーのキライー(ホモ温泉)を思い出すが、そうでもないらしい。

6 x 3 メートル程度の浴槽は、階段状になっていて一番深いところは 1.5 メートルくらいある。温度は 46 度くらい。とてもとても熱い。お湯は 1 ヶ所から猛烈な量が出ている。当然掛け流し。長く入れないので浴槽の回りにあるベンチで休むが、部屋全体がサウナの様なところだから、無茶苦茶汗をかく。水風呂がないのが残念だが、部屋の外にはシャワーがある。

標高 1000 メートルのこの場所の水はすごく冷たく気持ちがいい。その後で強烈に熱い温泉に入ると体中に電流が走る。これがまたいい。そんな事を数度繰り返すのだった。

この温泉、とても気に入ったので、またまたビザ取得の待ち時間を利用し、今度は泊りで行く事に。

さっそく温泉に入る。今日は洗い場に垢すりの人がいた。5 分くらい垢すり。5 分くらい洗いとマッサージで、5M リラ(225 円)。まあまあだな。チュニジアの時はもっとマッサージがすごかったけど。しかし例によって垢がいっぱい出た。恥ずかしいくらい。やってくれる人も満足そう。温泉に再び入る。ヒリヒリする。でも体がつるつる。

この温泉 6 時から 24 時までやってるらしい。お勧めである。

風呂上がりに酒屋さんでビールを買う。店の外で涼みながら飲んでいると店の人がイスを持って来てくれた。何と親切な。

ところが目つきに悪い二人組みがやってきて、ビールを外で飲むなと注意される。厳格なイスラム教徒なのかなあ。でもその二人、店に入り酒を買って出ていった。なんだソリヤ。

酒屋の店員によると、この辺りは結構酒に厳しいんだとか。

このクズルジャハマンという街、ぜんぜん外国人慣れしていない。これまでは観光地やアンカラといった大都市にしか行かなかったせいか、こんな街がとても新鮮である。子供達は私の顔をみるなりびっくりした様なしぐさをするし、中には、後ろから駆け寄り正面に回って私の顔を拝む。大人は大人で、行く先々で握手を求められる。ちょっとしたスターである。

ピザ屋

美味そうなトルコピザ(縦に長い)を焼いているお店があったので入ってみた。店の店員はなかなかのナイズガイ。英語も上手い。

『先々週も外人が来たんだよ、スイス人だった』と嬉しそう。携帯で取ったという写真を見せてくれる。

日本にはピザはあるかとか、温泉はあるかとか質問攻め。その内、近所の青年たちが 10 人も集まってくる(10 人中、2 人が英語が話せた)。

『どうでもいいから、とにかくピザを焼いてくれよ』とお願いするが、話に熱中してなかなか作業に掛かってくれない。ここではピザ待ちかよ。

ひとしきり私への質問タイムが終わり、ようやく作業に掛かってくれる。

何だか特別に巨大なピザを焼いてくれた。残しちゃ悪いと思ってやっと食べるぐらい。それで 2M リラのところを 1M リラ(75 円)に負けてくれる。おまけに紅茶を 3 杯も入れてくれる。さらに即興で替え歌まで歌って歓迎してくれる。いろんな話をした。

嫌いな国は 1 地位イスラエル、二位アメリカ、三位ギリシャだそうだ。政治や宗教の話にはかなり弁舌が冴えるが、

『トルコではデートの時に、お金は男が払うのか?』なんていう質問には照れてしまってなかなか答えてくれない。



ピザ屋の店員。英語が上手く、歌も上手い。私の為に即興で歌ってくれた。かっこいいぜ。

やっぱこういう国は田舎に来なきゃ、ホントの国の姿って分からないなあ、などと思う。トルコの街は乗り換えも含めていろいろ行ったが、このクズルジャハマンが一番好きになった。

さてピザが揃ったので、もうアンカラには用がない。さっさと移動することにした。アンカラはとても疲れる街だった。

10 時間かけて国境の町アンタクヤを經由し、一気にシリアへ行く事に。

次の国へ続く

つづく